

会 議 録

会議の名称	平成25年度 第5回豊中市図書館協議会		
開催日時	平成25年(2013年)11月26日(火)18時30分~20時30分		
開催場所	豊中市立岡町図書館 集会室	公開の可否	㊦・不可・一部不可
事務局	岡町図書館	傍聴者数	6人
公開しなかった理由			
出席者	委員	松田 美和子 杉浦 公男 鶴川 まき 橘高 美那子 舟岡 直子 大野 俊介 森山 みさと 岸本 岳文 渥美 公秀 村上 泰子	
	事務局	堀野岡町図書館長 大原野畑図書館長 北風千里図書館長 木村庄内図書館長 江口岡町図書館副主幹 藤原岡町図書館副主幹 川上千里図書館副館長 前川高川図書館長 須藤蛍池図書館長 松井岡町図書館副主幹 西口岡町図書館主査 上杉岡町図書館主査	
	その他		
議題	1 図書館の施設配置について 3 その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

平成25年度（2013年度）図書館協議会

日時：平成25年（2013年）11月26日（火）18時30分～20時30分

場所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：（敬称略）

委員 松田 杉浦 鶴川 橘高 舟岡 大野 森山 岸本 渥美 村上
事務局 堀野 大原 北風 木村 川上 前川 須藤 江口 藤原
西口 上杉 松井

開会

資料確認

委員（欠席者）の紹介

●委員長

それではお手元の次第に沿って議事を進めさせていただくが、ここで図書館協議会の運営方法について、委員の皆様にご了承いただきたい。この図書館協議会の運営方法として、豊中市では原則的に会議を公開しており、今日も10名近い方が傍聴に来ておられる。傍聴については10人を定員にしているが、ご希望の方が定員を超えた場合の傍聴者の人数については、その時の状況を見ながら私の方で判断させていただくということによろしいか。なお傍聴の方にはアンケートをお願いしており、協議会を傍聴されてのご意見等をお伺いし、特に皆様にもお伝えすべき内容についてはご報告する。前回の会議録については、事前に送付させていただいたものについて、とくに皆さんから修正についてご意見はなかった。公開の際には、お手元の記録と同じように概要という形にし、発言者については個人名を掲載せず、委員とのみ表記しますので、ご了承ください。

それでは議題に入りたい。事務局から本日の追加資料の説明をどうぞ。

●事務局

資料14をご覧ください。前回、施設配置の議論の中で、図書館の中長期の計画が見えにくいとのことだったので、それを一度整理させていただいた。今日は資料が多いので説明は簡単にさせていただきます。まず中長期計画の考え方をご説明したい。図書館の使命と理念のもと、基本的な人権の一つである知る自由を保障する生涯学習の機関である図書館が、赤ちゃんから高齢者まで、市民誰もが身近に利用できる施設として、これから先10年豊中市立図書館が目指す姿は、「待ちから街へ」というキーワードのもと図書館の中で市民を待ち受けるだけでなく、これまで以上に司書が街に出て地域と人、人と人、人と情報をつないでいくため、資源の最適化による効率的・効果的な運営を図りながら、学びの循環に積極的に関わり、地域の課題解決などへの支援や取り組みを通して、地域の情報拠点としての役割を目指していく。子ども読書活動等についても現状の取り組みをすすめながら、若年層・リタイア世代への支援とサービスに重点を置く図書館を目指していく。このような目指すべき姿を掲げている。図書館の目指す姿の実現のための4つの目標がここに書いてある。そして、4つの目標に向かってランドデザインの28のプラン、直接的に目標を達成するプランと、事業を維持し資料を確保するための

プランに事業を分類し、この2つを効果的に結び付けることで目標達成を目指していく。これらのプランに優先順位をつけてすすめていきたいと考えている。目標指数として図書館登録率を40%～60%へ上げるということ、10代後半あるいは30代にかけての若年層支援とシニアリタイア世代へのサービスに重点をおき、登録率を上げることを目指している。最後に図書館サービスのあるべき姿を実現するための経営見直しとしては、ICTを活用した貸出返却業務の自動化、あるいは多様な雇用形態を活用することによって人件費の縮減を目指して、『新・豊中市行財政改革大綱』取り組み総括にあるコストについても目標に向かって進んでいるところである。以上が中長期計画の考え方である。

続いて資料13の、年齢別の利用状況についてご説明したい。こちらは対象年齢別の利用状況と対象人口を一緒にしたものである。こちらの資料から見てとれるのは、対象人口の割合で見て、小学校中学校世代、6歳～8歳、9歳～11、12～14歳あたりの登録率と一人当たりの貸出冊数が非常に多くなっていること。また、30代を中心とした保護者の世代、この世代の利用が多くなっているということ。こちらについては横の貸出人数のところに男性・女性別も示しているが、女性の割合が多くなっており、お母さんが乳幼児を連れて利用されている事が表れているのではないかと考えている。下の方については各館の貸出人数の内訳となっている。全体の割合にして、ざっくりとではあるが、高齢者の割合が比較的多い館としては庄内、高川、庄内幸町、千里図書館。小学生中学生の割合が多くなっているのが、岡町、野畑図書館になっている。小学校中学校に加えまして、乳幼児の利用が多いところは服部図書館、東豊中図書館となっている。蛍池図書館については18歳～29歳までの世代が多くなっている。

資料15は前回図書館協議会の論点整理で、諮問の趣旨、行財政改革からの見直しの状況、あるいは答申の類の資料類、あるいは施設についての特徴と課題等、そこにいただいたご意見を項目別にまとめたものである。この資料の左部分の真ん中にある通り、図書館協議会と市有施設有効活用委員会が審議会としてそれぞれ今議論されている最中である。基本的に図書館の施設配置については図書館協議会で議論いただき、市有施設有効活用委員会については方針あるいは基準等について議論いただいていると聞いている。

資料の17は「豊中市市有施設有効活用計画」の抜粋で、いわゆる市域全体の市有施設の状況を概括的に捉えたものである。市有施設有効活用計画は、施設の見直し等を含め施設の適正配置について、あるいは公共施設の効率的計画的な維持・修繕・管理について、あるいは所有不動産の有効活用についてまとめたもので、市有施設の地域別状況の抜粋を資料とした。

北部地域は千里ニュータウンが特徴で、千里ニュータウンは昭和41年～53年にかけて集中的に建設されたことから、千里中央地区の再整備事業として平成20年（2008年）に千里文化センターコラボとして建て替えされた。新千里出張所・千里図書館・千里公民館・千里保健センター・千里老人センターが共存しており、市民の集いの場としての機能を発揮している。コラボの運営には市民とのパートナーシップに基づいた手法を取り入れ、新たな公共空間の創出を展開している。

中部地域は、阪急宝塚沿線の駅で言うと、蛍池・豊中・岡町・曾根・服部になるが、この地区の特徴はそれぞれ駅前の複合ビル、例えば蛍池ではルシオーレ、豊中はエトレ豊中という複合施設の中に公共施設が入っている。岡町駅周辺には市役所あるいは福社会館、伝統芸能館等、あるいは豊中人権まちづくりセンター、岡町図書館等が整備されているが、比較的築年数が経過しているところが多いところである。

南部地域は、名神高速道路以南の庄内地域にあたる。庄内の中心部に関しては人口急増期に整備されたものが多く、労働会館・出張所・庄内文化センターなどがあり、築年数が経っているものが多い。この地域には市営府営の公営住宅が多い。それぞれの地域特性あるいは市有施設の特徴がよく出ているので資料とした。

資料16は、今年2月に南部地域の活性化のフォーラムがひらかれた時に示された、南部コラボセンターの基本コンセプトである。追加資料は以上である。

今回他館で開催して岡町以外の様子も見ただけだと良かったのだが、場所が確保できなかったため、その代わりに豊中市立の各図書館について、建物外観、館内風景、そしてその地域に特徴的なところを写真で少し説明させて頂きたい。

(各館写真を映写)

先日お渡しした施設概要一覧とサービス状況一覧を後でご覧いただきたい。

これは岡町図書館で、豊中では昭和20年に最初の図書館が開館したのだが、この建物は昭和44年から現在のこの位置にあり、平成4年に大改修をした。蔵書冊数が26万冊。1Fが子ども室と団体貸出室。2Fに成人貸出室、3Fに参考室。成人貸出室では医療健康情報コーナーや就業支援コーナーを特色としている。子ども室の奥には「世界の子どもの本の部屋」があり、約6,800冊の外国語の子ども本を集めている。また市内の読書会への資料提供、障害者サービスの中心館として点字図書や録音図書も収集・貸出を行っている。次の写真は動く図書館である。図書館の館外サービスの拠点があり、子ども文庫をはじめとする団体への貸出、動く図書館による巡回貸出などを行っている。動く図書館車に約3,000冊の本を積み、図書館施設から離れたステーションや、支援学校など図書館に来館する機会の少ない子ども達が通う施設などに出かけている。巡回頻度は約4週間に1回である。さらに、岡町図書館は青年の家いぶき内のいぶき図書室、豊島西小学校内敷地内のバス図書室の担当もしている。周辺の雰囲気を表すものとして、阪急電車の向こう側に岡町の商店街があり、その先に市役所がある。この図書館は駅前ということで、通勤・通学、買い物のついでに立ち寄りが多い。商店街の横に原田神社があり、他にも名所旧跡がある。そこで岡町図書館には郷土資料や行政資料も多く所蔵している。近年、市民との協働事業として地域資料デジタル化事業「北摂アーカイブス」も展開している。

次は服部図書館である。市民の憩いの広場、服部緑地へ歩いて5分の距離にある岡町図書館の分館である。団地や住宅街の中にあり気軽に立ち寄りいただける明るい図書館を目指している。蔵書は6万5,000冊で日常生活に役立つ実用書・読み物・雑誌が中心である。建物の大きさや蔵書に比べ大変利用が多い。周囲の様子として道路を挟んで向かいに病院施設もある。服部図書館自体がデイサービスとの複合施設で、これらの施設と協働で事業を展開していきたいところである。

次に庄内図書館である。写真では建物の古さが伝わらないが、昭和50年にオープンし平成5年に改装した。建物は本当に古くなっている。老人福祉センターや公民館との複合施設である。庄内地域には、下町情緒の活気がある。その中で図書館は地域で安心して暮らせる街づくりにつながるイベント、他の施設との連携を大切にしている。写真は多文化コーナーの様子である。庄内図書館では、多文化資料の充実を図っており、小中学校や国際交流センターを通じて提供している。次の写真は図書館3Fの「しょうないREK」で、リサイクル本販売コーナーを地域のコミュニティスペースとして活用している。この写真は「しょうないREK」が庄内祭りで古本市をしている様子である。周囲の様子としては、近くに大きなマンションもあり、少し歩くと庄内駅前に豊南市場がある。

この小さい敷地の背の高い建物は庄内幸町図書館である。単独の小規模図書館で、平成5年に開館した。蔵書冊数は2万5000冊で、現在は3Fを閲覧室に、2Fを学校図書館支援ライブラリーとして教員向け資料など特色ある資料収集をしている。

高川図書館は、老人デイサービス・老人憩いの家・スポーツルームとの複合施設である。古くからの町で工場と文化住宅が混在している。「ぶらりあん」と名付けたコーナーで懐かしい映画上映などを行っている。高川図書館は広くゆったりとくつろいでいただける憩いのスペースを提供し、高齢者を中心に地域に親しまれる図書館を目指している。

次に千里図書館の様子である。大きなマンションが見えているが、手前の小ぶりの低層の建物が千里図書館が入っている千里コラボである。1F部分が阪急バスのロータリーになっている。付近の様子として、商業施設セルシーなどの建物があり、広場などのある2Fからコラボの建物につながっている。千里中央駅から歩いて2分、千里文化センターコラボの4Fすべてが図書館である。千里図書館は、文化センターを中心とする施設との連携や、市民との協働により地域の活性化に役立つ図書館を目指している。図書館フロアの様子を何枚か用意した。ターミナルという事や商業地域の特徴を生かして、ビジネス支援コーナーがある。新聞・法律関係のオンラインデータベースを利用することもでき、また10代のヤングアダルト世代に資料情報を提供するコーナーを設けている。

次に東豊中図書館、千里の分館である。昔からの住宅街の坂の途中にある。ゆたか幼稚園との複合施設で、幼稚園の上3Fが図書館である。幼稚園のグラウンド下に駐車場、玄関前に駐輪場がある。蔵書は約7万5000冊である。写真は成人書のコーナーで図書館の大きさの割に子どものコーナーの割合が大きくなっている。座席は少ないが、シルバー世代の方など滞在型の利用も多いため、シルバー世代の方の新たな発見や生きがいに繋がる図書館を目指している。また周辺のマンション増加に伴い子育て支援の充実も目指している。

次は野畑図書館である。昭和63年に建ち、図書館全体の共同書庫があるため、蔵書は約30万冊を超える冊数になっている。住宅街の中にあり、他の公共施設は小学校と中学校しかないことから、図書館の集会室を地域の方が様々な活動で利用されている。選書委員会も野畑で行っている。野畑図書館は子育て・DV防止関連の資料をここ数年集めている。またヤングアダルト世代、中高校生向けにも様々な試みを始めたところである。地下駐車場と同じフロアに共同書庫がある。年に数回「書庫に入れるDAY」という催しを行い、一般市民の方に直接書庫に入らせていただき様々な本に触れていただく機会を設けている。これは周辺の写真で、周りは住宅街になっており、近くを豊中ロマンチック街道という愛称の大きな幹線道路が走っている。

蛍池図書館は平成15年にできた新しい図書館で、阪急宝塚線・大阪モノレールの蛍池駅に隣接したルシオーレという商業ビルの5Fにある。公民館も同じフロアにある。明るく見晴らしの良い図書館である。同じ建物内にパスポートセンター、ショッピングセンターなどがあり、買い物のついでに気軽に立ち寄っていただいている。公民館と共催で行う催しも多い施設である。蔵書は7万冊で、今映っているのは図書館前のパンフレット等の情報を発信している場所である。

●委員長

説明された事柄について質問等ございましたら伺いましょう。

確認しておきたいが、最初に説明いただいた年齢別の利用状況の登録人数は、これは何年有効なのか。

●事務局

有効期間は5年間として登録更新している。

●委員長

例えば80歳以上の方は現在4,460人登録されていて、その方々が24年度1年間の間に2万5000回利用されたということですね。貸出人数が96万人で328万の個人貸出冊数だから、1回あたり3冊ちょっと、4冊いかないぐらいですね。

●委員

自分の住まいに近い図書館として岡町と服部を使っており、他の図書館をよく知らなかったのが良く分かった。新しくできた図書館は、複合施設の中に入っていることが多いと感じたが、その施設に入ったねらいというか、例えば千里コラボや蛍池のルシオーレに入った意図のようなことがあるのかどうか、複合施設内で他のところと図書館がどのように関わっているのか知りたい。

蛍池は同じフロアに公民館があるということだった。公民館と協働でいろいろな行事をしているとのことだが、例えばゆたか幼稚園は東豊中図書館をどのように利用しているのか、そういうところを知りたい。

●事務局

元々入った経緯ということについては、建物ができる時のいきさつがそれぞれある。蛍池に関しては、ルシオーレという商業ビルができる際に、集客力の面で上階に公の施設が入ることによるシャワー効果を期待する…という思惑もあったのではないかと推測する。ただ明確なコンセプトとしてあったかどうかは分からない。蛍池図書館は、公民館と図書館、あるいは地域のネットワークの中で事業面のコラボをしながら取り組んでいる。

服部図書館は上階にデイサービスがあるが、デイサービスを会場にハンドベルコンサートを例年催すなどしているところだが、高齢者向けおはなし会など今後の課題というところもある。これからどういう形で高齢者施設と連携していくか、いろいろな仕組み、手法も含めて考えていきたいと状況である。

東豊中図書館については子どもたちが図書館に来ておはなし会を聞くとか、こちらの職員が向こうに出かけるとか、定期的な実施はできている。千里コラボに関してはもともと市民協働の場ということでできた施設なので、今までの縦割りではなくセンター長を置いて、より連携がしやすい形になっており、市民協働の拠点として様々な取り組みをしている。

●委員長

施設については、図書館を作る視点からは、単独館がベターであろうと言われるのだが、やはりそれぞれの地域の事情もあるし、豊中の場合は複合の強みというのが、様々な施設との連携を作っていく上でひとつの強みになってくる部分があるだろうし、多分それをどう生かしていくかが施設全体を考えていく上で大きなポイントになってくるのではないかと考えながらご意見を伺った。

他にはいかがですか。では、それぞれの図書館についての概略説明を聞き、先ほどご説明いただきま

した「豊中市立図書館の中長期計画」をどう実現していくか、そのなかでそれぞれの施設をどのように活用していくか。これは先ほどのお話にもあったように、図書館だけではなく、豊中の様々な施設や団体と図書館がどうつながって仕事をしていくか、その中でどういった施設配置が望ましいかという事を考えていけたらと思う。論点整理をしていただきました。ひとつひとつ紹介いただいた今の図書館を、ひとつにはこの協議会の中ではトータルにどう捉えるかということ。全域サービスという中でそれぞれの役割を捉えるかということと、それぞれの地域の中で個々の図書館がどういったことを期待されているのだろうか。それに対してそれぞれの現状の中でどういった課題があるのだろうか。このあたりが整理できれば、豊中の中でのあるべき形と言うのが見えてくるのではないかという風を感じている。そうしたことも含め、ご意見を出していただけたらと思う。

●委員

これから資料のデジタル化も進んでいき、電子書籍サービスも今は低調だが今後コンテンツも増えていく中で、そうしたネットワークを通じたサービスが、ますます利用されるようになっていくだろうことは当然予想される。その中で、現実の施設にどういう人を集めたいのか、そこにどういった利用を期待するのかということが、これからの施設配置なり施設利用なりを考えるうえで非常に重要になってくるのではないかという気がする。そういう意味では先ほどご説明があったような、それぞれの館の特徴を少し出していくという事は当然進めていくべきではないかと思う。いわば2階建てのようなかたちで、1階部分は各館共通の基本的なサービスを提供して、その上の2階部分でそれぞれの地域に応じた他との連携サービスなり利用者の特性に応じたサービスなりというものを提供していく。そういうような方向がひとつ考えられるのではないかと思う。

●委員長

多分ベースになる仕事は共通だと思うが、地域のそれぞれの特色にどう応えていくかというのが図書館の持つ一つの大きな働きだと思う。さっき地域に積極的に出かける図書館というような言い方をされたが、そこを大事にしていこうとすれば、委員が言われたような、まずその地域ごとにどういったサービスを重点として展開していくかということが、当然考えていかななくてはならない事になってくるだろう。

●委員

各地域に応じた特徴ということだが、見せて頂いた時に私に対応させて見られなかったのだが、先ほどの資料13のところ、〇〇図書館は若者が多い、〇〇図書館は子どもが多い、〇〇図書館は高齢者が多いという説明があったが、展示・資料の内容・コーナーなどの持ち方で、そういう対応はもうすでに行っているのか。

●事務局

はい。それぞれの利用の特徴に応じてコーナーを展開するとか、やり始めている。例えば東豊中などは先ほども乳幼児向けのコーナーも設けていると申し上げたように、利用に応じた展開を積極的に始めている状況である。

●委員長

多分どこまでその地域の利用者、地域住民の属性を分析していくかということが必要になってくるかと思う。おそらく豊中の場合も、かなりそれぞれの地域ごとに住民の方々の属性の違いもあるだろうと思う。それは単純に年齢だけではなく、そうした方々が求めておられるサービスの違い、それにどう応えていくかということ、どこまで図書館が把握していくかにかかってくるのだろう。そういった点でも多分数値だけじゃなく、どこまで図書館の職員が実際の地域に出かけて行って、そうしたニーズを把握していくかということが重要になる。施設の配置見直しの計画を考えるにあたっては、そのことをベースにしていかななくてはいけないかという風に思う。

では、ちょっと感想も含めた意見をお聞きしましょう。

●委員

地域の特色とかをひとくくりにすると、そこからもれてしまう人がいる。そういう人達に対しての配慮もこれからの図書館においては必要な事だと思う。例えば若い人たちがいっぱい住んでいる地域だという風にひとくくりに思ってしまうと、その中に一人で暮している高齢者もおられるわけで、そういう方々もいるということを全体把握の中でもれないように考えていくことが、これからの図書館を考えるうえでも必要な要素になってくるかなと思った。

●委員長

そのことは、おそらく先ほどの委員が言われた2階建ての話かなという気がする。やはり図書館というのは、特色ばかりを追求してしまうと図書館ではなくなってしまう。一番求めておられる事というのは皆さん変わらない部分が多い。そういう共通の部分。さっきの話でいくと1Fの部分をどこまできちんとやれるかという事がなければ、2Fは作れない。2Fを作っていくっていうことは、1Fがきちんとしているという前提でなければいけないし、たぶんそれが今おっしゃった、もれている人たちというのを決して生み出さないサービスを作っていくことになるかと思う。だから特徴を追及するということがあまり前面に出過ぎて先走ってはいけないなと思う。やはり図書館である以上、いかに共通の部分をしっかり作るか。共通の部分は、豊中全体で作っていかなければいけないことだと思う。さっき言われた1F部分というのはそういう事ですね。そして今また言われたように、絶対にそこを抜かしてはいけない。そこを抜かしてしまうと図書館じゃなくなってしまうという風に思う。

●委員

前回はそうだったのだが、適正配置という時に何をもって適正とするのかということが、自分の中でまだ整理ができていなくて発言しづらいのだが、学校教師の立場で言うと、「なぜわざわざ学校に来て勉強するのか」というところについて。図書館の場合も、ただ単に本を読みに来るだけでなく、そこに人が集まっていることの意味合いがあるのかなと思う。学校の勉強でも、別に今ならば家に居ても勉強はできるし、一人であってもできるのだけれども、あえて学校に来ているというのは、他の人たちがいろいろな考え方を持っている中で、自分の考え方をもう一回見直していくとか、作っていくとかということ。そういうところに学校の価値があるのかなという風に思っている。で、図書館も一方では一人で

静かに本を読むというのも大事だけれども、本を読みに来る、あるいは知識を求めに来る人達が集まってくる「場」としての図書館、というのを一方では考える必要があると思う。そういった意味で、複合施設の中に入っている図書館が、いろいろな他の施設とどのように関わっているのかなというのを知りたくて、先ほどの質問させていただいた。実はそれを考えるきっかけになったのは、曾根にある市民会館が新しく「豊中市文化芸術センター」となる。「芸術文化」と言いながら、文化の中に図書館が入っていないのはすごく残念で、あそこに図書館があればもっといいのにと。芸術、音楽とか美術館のような要素もあると思うが、そこで見たことをやはりそこにある図書館で、自分で気に入った絵があればその作者の事を調べてみるとか、そういったような事が複合的にできると良いのと思う。そういった意味で、あえて複合施設に入ったのはどうしてですか、という問いをさせてもらった。本当ならばああいう所にこそ、この岡町図書館が老朽化しているのであれば、入るべきだったんじゃないかと思っている。もちろん敷地面積の問題とか、いろいろな問題があるだろうと思うが、今複合施設の話の色々と見せていただいたので、どんな関わり方をしているのか知りたかった。ですから、人が集まってくる「場」としての図書館のあり方というようなことも、一方で考えていく必要があると思っている。

●委員

人との関係と地域の特色というようなところから考えると、地域の中のいろいろな関係するところ、例えばデイサービスと複合施設になっている服部図書館なら社会福祉協議会との連携。独居老人の把握など、社会福祉協議会では把握しているわけなので、そこと具体的な連携を今後考えていこうとされているのか。今後の課題かなとは思いますが。それから学校という立場から発言すると、豊中市立図書館の中長期計画（グランドデザイン）の4つの目標の中に、学校図書館の事がきちっと謳われていることは良いと思っている。学校図書館を支援する人材配置というのは、例えば学校図書館からリクエストがあった時に出向いて読み聞かせをするような人も各館にプールされている、というようなことを考えてもいいのかと思ったりした。そのあたりはこれから考えていかれることかなとは思いますが、例えば地域との連携もそこに入るのであれば、公民分館の文化部などが対応できる地域もあるのではないかとか、そのへんが整理されていけば、いろんなところとのネットワークが示されたあの図に表れていたように、ネットワークが活かされるのではないかと思う。

●委員

遅れてきたのでここまでの話を聞いておらず感想になるが、幼稚園の立場から考えると、幼稚園に来る前の保護者の方達や乳児さんなどの未就園のお子さんに向けて幼稚園の保育を提供するなど、来ていただいているが、やっぱり人との関わりにおいて大変たくさんの不安を抱えておられる方が多い。幼稚園に遊びに来たけれども、職員にいろんな事を相談したいというのがある。図書館にもたくさんの本が「はいどうぞ」というように選べるようになってきているけれども、こういうものが読みたいとか、こういう事が知りたいと思いがらうまくそこにヒットできない時に、図書館司書がコンシェルジュのような役割でそこにいて、こういう事で本を見つけてほしいと相談できて、悩みに即したような本に出会えるように、もちろん子育ては本だけではないけれども、その不安解消のひとつとして、そういうものに出会えるコーナー、またそういう人との関わりがあって、「あ、図書館に行ってみよう」と思うようにしたい。子どもはそういう保護者の方と必ず一緒に行くことになるので、物心つく前から図

書館の匂いをかぎ、人の雰囲気を感じ、そして徐々に生活の一部に図書館が当たり前にあるような、そういうところになっていければいいと思う。

●委員

先ほどのお話で図書館の1F部分という話があったが、1F部分というのは図書館としての基本ということですね。そこで図書館の基本は何かというと、やはり図書館へ行くのにはこういう事を調べたいとか何かの問題意識があってということが第一。それから娯楽もあるだろうと思うが。そういう何かの目的があってこられる場合に、それに応えていくというのがやはり図書館としての第一の使命だと思う。その上で地域との連携ということが出てくればなお良いが、私も岡町図書館を利用させてもらってこの周辺はよく分かるが、他のところはどういう状況にあるか、住宅街なのかあるいは工場地域なのか、古いマンションに住まれている方が多く集まっている所なのか、実際のところがよく分からない。地域との連携といっても、簡単に「ここの図書館はこうした方がいいだろう」という事は言いにくい。全体的には先ほどおっしゃった「図書館の基本」ということをやっぱり大切にして、そこに来られる目的に合致した本を提供できるようにするのがやはり大事な基本だと思う。

●委員

私はよく千里中央に行くと、ついでにちょっとのぞいてみるが、結構利用されている方が多いと、つくづく最近になって見直している。子ども連れの方もたくさん行っておられる。図書館は子どもを育てる時には本当に必要だなと思う。子どもを連れての方が図書館へ行っておられる姿を見ると、やっぱりいろいろな面で必要性があるのだと感じる。今はもう親の世代と一緒に住んでいる人が少ないこともあり、その分いろいろな事を本を通じて学んだり、また図書館の中で子育ての話を聞くなどして知識を得ておられる姿も見ている。地域性ということでは、千里ではそういう姿を時々見かけており、大事だと感じている。

●委員

図書館についてたくさんの意見があって、どこからお話したらいいかと思うが、今の話の流れから複合施設の千里コラボを建て替える時が、その当時「豊中市市民公益活動推進条例」ができるなどの動きがあり、それを具現化するために市民からも意見を出しやすい時期だった。市民も本当に頑張って意見を出し関わってきた。そして千里コラボができ、図書館・公民館・他の施設がどれほど有効にネットワークで、あるいは本当にコラボしながら活性化させるかという視点で見えてきた。やはり千里コラボはよくやっていると思うし、おそらく他の地域よりも先進的にやっている。でもそれで十分かどうかということについては、やはり検証が必要だと思う。そして他の地域はどうかという風に見ると、やはりなかなか難しいことがあるようだ。地理的問題、施設の構造の問題、図書館単独館の場合とか、やはり施設が古いとかいろいろあって、その辺がもうひとつ上手くいっているとは思えないので、これからの課題であるという風には思う。図書館が大事という視点で、そこをもう少し市民としてきちっと見直して、これからの図書館を考えるという立場に立つと、学校図書館と公共図書館の連携というのはブックプラネット事業とかを通じて盛んに言われているが、これから未来にわたって図書館を本当に上手に有効に使える子どもたちが、豊中ではおそらく育っているはずだ。平成17年(2005年)には、全小中学

校に学校司書が配置されたということもある。そこで私が個人的に感じるのは、連携についてのPRが不十分なのではないかということだ。図書館もその子ども達を、自分たちの豊中の未来の図書館を使う人として見ているかどうかという問題。それを考えると、もっとPRの仕方があるのではないかと思う。ただ図書館で本を貸すとか資料を調べるという事プラスアルファの何か。図書館はこのように豊中市内でネットワークを組むような機能を果たしているのだということを知りやすい言葉で、子どもの時代からしっかりPRしていくという事がすごく大事だろうと思う。おそらく議会や行政の人々に対しても、図書館はこのように機能しているということを知りやすくきちっと伝えることを、日常的にやっていかないといけないのではないかと思う。そのPRが根本的に不足しているのではないかと感じる。

●委員

ここまでの話の中に出てきたのは、地域内の連携という話だったかと思うが、施設配置を考えるにあたっては、もう少し広域の連携ということも同時に考えていかないといけないのではないかと思う。すでに、吹田や箕面をはじめとする豊能地区三市二町とは広域利用を実施していて、どちらの市民も両方利用できるというような形に進んでいるが、それが他の市町村などとの連携ができる、もう少し広域行政の中で図書館も展開していけるという方向も模索すべきだろうと思う。海外とくに北欧の例を最近聞いたところでは、国を超えて相互利用もできるというようなこともあり、いろいろな地域で館を限らず相互に利用できるというような事もあって、人々の行動半径は一部ではやはり広がっているので、そういうことも考えていっていいのではないかと思う。また、なかなか難しい事かもしれないが、新設する場合にも、複数の自治体にとって非常に交通の便がいいところがあれば、共通の館を作るなどということも発想としてはあってもいいと考える。また、一つの施設の中の書架配置や設備の作り方についても、連携を進めてそこに集まる人々が一緒になって何かの活動をするような場を、それに参加をしていない人からも垣間見えるような形、閉鎖的な部屋の中でやっているということではなくて、例えばこういう会議についても開館している時間帯であれば、「あんなところであんな事をやっている」というように見えるような形にしていくこともいいのではないかと考える。

●委員

「豊中市立図書館の中長期計画」の項目や前回の論点整理を見ながら、いくつか申し上げたい。緊急時に避難所となる施設でもあること。全域サービスと耐震の問題は少し飛躍しているように聞こえるかもしれないが、どこでも耐震性のある安全な施設が必要になるという指摘を重ねて、今日触れたいのは貴重な資料の問題についてである。一つしかない資料ということでは、実際に岩手の方で見ている事例においても、例えば「出稼ぎ新聞」という自分達で書かれたようなものや、その土地にしかないようなものが流されてしまっている。このような事態に関しては、水の中から回収して、その復刻に取り組んでおられる。買える本ならばまた購入もできるし、全国から寄付してもらえるかもしれないが、そこにしかない貴重な資料がある。そうするとやはり火災などを含めて、様々な災害から貴重な資料を守るという使命についてもどこかに書いてあったらいいと思う。それから利用の形態ということからは、先日も学生達の図書館の利用が下手だという話をしたが、例えば司書の存在が分かっていない。「本を片づけている人」ぐらいの認識しかない。全然利用の仕方が分かっていない。そこで、こういう事を聞いていざと言っていて、はじめて認識するという状態。そういう事についても豊中市では小中学校の図書館

を利用する時代から教えているのかもしれないが、僕らは教わってこなかった。そういう事も普及させていって、若い子たちがいざ利用するという時に戸惑っている様子があるなら、そういう事を教えたらいいと思う。「私に聞いてください」という札をつけているだけでも良いかもしれない。

それから改めて中長期計画を見てみると、最後に目標指標で登録率を40%から60%にするという。これで本当にいいのかなと、今さらながら思う。有効期限が5年という話があったが、期間が変わると少し数字も変わるだろうし、学校に通うようになったら必ず登録するなどにすれば、また変わる。そういう数字で良かったのかなと思った。こんなところにこういう数字の目標があったのかと、今日改めて感じた。

それから全域サービスという本来のテーマとしては、どこどこを一緒にするかとかそういう話になるのかもしれないが、それぞれの地域でよく利用されている時間帯というのは把握されているか。地域によって違いはないか。例えば夜遅くまでにぎやかな町もあれば、朝が早い町もある。僕が日本で見て驚くのは、図書館の開館時間が普通9時から17時というような設定であることで、そんな風に人は生活していないだろうといつも思う。大学なども深夜に開館したら学生が一杯来るというのも事実である。ひょっとすると、コストを下げなければいけないということと矛盾してしまうかもしれないけれど、先ほど各館の特徴を出すというところで、地域を歩いてということを経験しながらも補足があったが、図書館ごとに地域を歩いて、例えば深夜にあいている日とか、早朝5時から開いている日とか、そういうことも含めて全域をカバーするとか全域のニーズに応えるというふうに考えると、今日なぜこの部屋は閉まっているのだろうと思ったので、そのような事を付け加えておきたい。

●委員長

今言われたように、施設の配置計画を考えるということは、やはり豊中の図書館全体をどういう風にしていくかという中で、押さえていく必要があるのだろうとお話を聞きながら感じた。もうひとつ先ほどの委員の発言にあったように、単に豊中市内、自治体の枠の中だけで考えるのは、すでにあまり現実的ではないのではないかとということ。市民は、利用者の方々は、もっと広い行動範囲の中で活動しておられるとするなら、実際のそういう機能はもう少し広いところで考える必要があるのではないかと。ただ基本のところ、これは責任の問題になると思うが、やはり豊中の図書館の資料提供という責任は、豊中市がきちんと背負っていかなければいけない。しかし実際に市民の方々が利用されている実態にあわせて、他の自治体との連携をどう作っていくか。その中で配置計画もきちんと現実的な形で考えていった方がいいのだろうと思った。また少し前に「図書館に知識を求めて来る」というふうに言われた委員がおられたが、最近の海外の図書館建築の事例をいくつか見ていると、話にも出たように非常にデジタル化が進んでいる一方で、すごく本を見せる図書館が多くなってきている。オランダのブックマウンテンでしたっけ、図書館の中に本当に本の山ができていたような図書館もある。多分デジタル化が進んでいるからこそ、本が持っている何か「象徴性」というようなものがより意味を持つようになる。多分本があるということが、「そこで知識に出会える」ということを実感できる場だということでしょう。知識を求めてやって来るというのは、そこに「本」という形で、知識が目に見える形で存在しているということ、そのことが図書館に人が惹きつけられる、おそらく一つの大きな要素だろうと思う。そのようにして目的をもって来るというのは、自分の中の知的な好奇心が図書館に行く事によって刺激されて、そういうことによって図書館というものが人を元気づけられる場所になっているのかなというふうに思

った。おそらく共通の部分としては、そこをいかに大事にしていくかという事なのだろうと感じている。

全体の状況ということで、前回これから施設に期待される役割からというところで、ちょっと質問が出ていた事があった。先ほど少し資料にもあったが、「南部コラボの構想」というのが挙がっていた。これについてももう少し説明をお願いしたい。

●事務局

先ほど資料16を簡単に説明させていただいたが、それを基に南部コラボの構想について説明させていただきたい。この資料は、2月のフォーラムで中間まとめという形で出された南部コラボセンターの基本のコンセプトを表すものである。南部地域の魅力・特性を活かし…と書いてあるが、写真でも映したように、庄内駅周辺には大きな市場があり下町の風情があるほか、ものづくりのまちということで事業所が豊中市内でも数多く集まっていて、中小企業などが多いところである。

そして大阪音楽大学が庄内駅のところから歩いていける距離にあり、音楽大学のある町というのも特徴である。そこで大阪音楽大学と連携した取り組み、「音楽の町」というブランドを作っていきたいということで、大阪音楽大学との連携という要素も出てきた。そこで、基本理念というものがこのフォーラムで4つほど出されている。地域の魅力として「ものづくり」とか「音楽の町」という部分での地域活力の創造。それから庄内地域を担う次世代、子ども達を地域全体で育ていこうということで、住民主体のまちづくりの醸成。みんなで集まって学んで助け合う。南部地域は、にぎわいの町であると同時に課題も多く、学力の問題や経済的な問題で課題も多い地域でもあるため、地域全体で子ども達を見守っていこう、子育てをしていこうということ。基本理念の3つ目としては「ワンストップサービス」。南部地域には庄内出張所や複合施設の公民館・図書館・老人センター、労働会館や保健センターなど公共施設もたくさんあるが、それらが庄内地域に単独施設でばらばらに点在している。それらがまた先ほども言ったようにそれぞれ昭和50年代前後にできていて、もう30数年から40年近く経っている。このように老朽化も進み、いろいろな施設が離れていて大変不便だということがあるため「ワンストップサービス」が求められている。そこへ行けばなんとかなるといふ、そういう機能を持たせたいということである。そして住民一人一人のいきいきと充実した生活の実現。庄内エリアの生活面の課題を改善して、充実したいきいきとした生活を実現していこう、そういう理念を持っている。もうひとつには、教育面で、庄内エリアの児童生徒数がどんどん減ってきており、今後数年増える見込みがないということで、教育環境の再編ということも一部出てきている。当然地域ぐるみで子ども達を育てていこうということですので、学校との連携ということもコラボセンターの大きなテーマとして出てきている。そういう理念のもとに、センターにどういう役割を持たせるのかという部分で、右側に機能1～4までであるが、このフォーラムの後も、今年度「基本構想」を3月までに作るということになっており、引き続き検討されている。「市民活動コーディネート機能」をもう一つ機能として加えようという話になっている。2番目のところに「住民の出会い、楽しみ、繋がり、ひろがりの拠点」というところがあるが、市民活動がこの南部コラボで活発に行われるのなら、拠点は市民活動のコーディネート機能も持つべきだ、必要だという話が出ている。南部コラボのセンター全体としては、千里コラボのようにセンターを作るというだけではなくて、地域全体の公共施設の再編が想定されている。今点在している公共施設の再編と、学校教育環境の再編も一部出ているので並行して行って、南部コラボセンターを中心として地域のネットワークを大きく包み込む南部コラボセンターネットワークというものを作って、その拠点を担うのが南部

コラボセンター。そして学校や庄内の各地域にある公共施設の中に、サテライト機能を持たせて、そのサテライトと南部コラボによる大きなネットワークの中で、南部地域の活性化を考えていこうと、そういう構想になっている。今年度に入り市民会議も設定され、公募の市民委員の方も加わり会議も進められている。市民の方々のご意見をもっと地域から聞くために、ラウンドテーブルも3回ほど開かれている。毎回テーマが設定されて、市民の意見、情報交換を行いながら南部コラボセンターのことを考えていくという状況が現在である。

●委員長

今日の資料の中にも現状の中で、南部コラボ構想の進捗状況を見据えながら…という事であった。

そうした中で図書館全体、さっき指摘があったように、皆同じような開館時間の設定でどうなのかということも含め、そうした豊中市全体のニーズにどう応えていくかという議論をしていかななくてはいけないのではないかという気がしている。そうした中でひとつ、こうした状況がすすんでいるということだった。先ほど委員が発言されていたなかで、千里では非常に協働と言うのが一定評価できる形で進んでいるとのことだった。しかし、これが他の地域ではなかなかそうならないというのは、どういったところに理由があるのだろうか。

●委員

それは歴史的なものや構造的なものがあると思う。千里はひとつの館の中に公民館とか様々なものが入っているのだから、市民としても「せっかく入っているのだったら公民館の催しに図書館も一緒に協働でいろんなことができるんじゃないですか？」と考え、働きかけやすい。図書館と公民館に限らず。そのことについては設計段階からかなり意見を出したし、実際に出来上がった状態においても、その努力はされていると思う。ただ、まだもっと他の地域に影響するようなどころまで展開できればな、と感じている。今、南部コラボの説明を聞いたが、この紙の中には図書館がこの中に入るというのが一切ないという事は、図書館はサテライト機能を持つようになるというふうで考えるのか。どのように図書館と南部コラボが関係してくるのかを知りたい。もちろん南部コラボの構想の中に図書館が位置づけられるべきだということは理解できるが、具体的に地理的な問題とか建物の中でどのように関わるのか、そこまではまだ分からないのか。

●事務局

そこまではまだ話が具体的には出ていない。南部地域の活性化をどうしていくかという話がまずあって、その中に南部コラボセンターも要素の一つとしてあるということだ。サテライト機能と図書館の関係もまだよく見えていない。これらの機能5つが出てきているが、どの機能を図書館が主体的に担っていくのか、どの施設がどの機能を担っていくのかという話についても、まだ具体的には出てきていない状況である。

●委員

それに関して、図書館としてどう考えるかという話し合いなどは、きちっとしているのか。

●事務局

まだ内部でもそこはまだ検討できていない。

●委員

市民公募委員が加わってすでに3回の会議が持たれているのに、図書館として組織として南部コラボにどう関わるかという話し合いがないというのは少し理解できないのだが。というのは、幸町図書館と庄内図書館の合併という話を聞いた事もあるし、幸町図書館をどうするかということはかなり前からよく話題になっているのに、南部コラボという大切な大きな変化があるところに図書館のヴィジョンがないというのが理解できないのだが、そのあたりはどうでしょう。

●委員長

おそらくそのヴィジョンを作るということは、今ここで適正配置について議論していることがつながっていくところではないかと私は理解しているのだが。おそらく前提として何かがありきの話ではないだろうと思うし、豊中全体の中でそれぞれの施設が抱えている課題と、それらをどうしていくかという中で、もし必要があればその南部コラボという選択肢もありうるという、一つの選択肢なのかなと思う。ただその議論というのは、この協議会の中で豊中市全体の配置というものを皆で議論していただきながらやらないと、この議論そのものの意味がなくなってしまうのではないかと。

●委員

それはよく理解できる。しかし、南部コラボをどうするかという話がすでに進んでいることから、この話との関わりがどのようになるかがとても気になる。すると図書館協議会の中でそういう事をきちっと話をつめていくことは、かなり急ぐ必要があるのではないと思うが、そういう理解でよいか。

●委員長

私も「年度内で答申を」という風に言われていることから、今の議論を進めながらまとめていって年度内ということは、かなり近いうちに一定の方向性を皆の中で共有していくようにしなければいけないと感じている。

そうした意味で、では豊中全体の中で施設配置も含めてこれから求められる部分として、どういった課題があるのか、特に地域的な課題があるのかということについて、少し委員の皆さんが感じておられる事をお聞きできたらと思う。豊中全体の中で、それぞれの地域を見て、今どこがどういった課題になっていると感じるか。いかがですか。

●委員

全体を見たときに、やはり前回いただいた配置図を見る限り、南部地域には図書館の輪が3つ重なっており、やはりすごく気になるころではある。高川図書館・庄内図書館・庄内幸町図書館、そのエリアをどういうふうに地域のニーズに合わせて、より使いやすい、よりニーズにあった形にしていくのか。そこがやはり問題だろうと私は感じている。

●委員長

それは施設といった事を含めてということか。

●委員

施設、そして老朽化という言葉も出ているので、そこも気になる点である。

●委員

南部の状況については、私はあまり言えるような中身は持っていないのだが、ただ南部コラボという名前である以上は、千里でもそうだが、図書館とそこに入る様々な施設が有機的に機能していく必要があると思う。千里コラボの状況がよく分かっていないけれども、やはり縦割りではいけないと思う。図書館は図書館で考え公民館は公民館で考え、それぞれがばらばらの状態では、せっかく「コラボ」という形で施設をつくっても果たしてホントに有機的に機能するか疑問なので、やはりその辺をしっかりとさせておきたい。ただ単に一緒の場所にあるというだけで終わってしまっただけではいけない。今日も蛍池に仕事の関係で行って、帰りにのぞいてきたのだが、もともとの商業施設の中に入っているってことの限界もあると思うが、公民館は公民館でいろいろなサークルが活動するための部屋があって、図書館は図書館である。もちろんさまざまな形で連携はされていると思うが、そういうつながりは見えてこない。図書館に来た人に、「子育てサークルの活動をやっているな」とか、「お話し会もやっているよ」と気軽に伝わるようなことがあまりない。そこでは見えてこない。そういうことは施設の的にすごく難しいことかとも思うが、面積の問題もあるだろうし、でもそこを考えていかないと「コラボ」という名前をつける意味がないのではないかと思う。だいぶ前の話になるが、同志社国際高校の図書館が新しくなったということで見に行ったことがある。その当時は「メディアセンター」というふうには呼んでいた。私学ということもあり、非常に広い面積の中に、もちろん書架もあるが舞台もある。もう一方にはパソコンのデスクもずらっと並んでいる。あるいは講義形式の授業ができるような場所もある。そういったところで講義をしながら、一方で調べ物をしに行ったりパソコンで調べ物をしたり、調べたことを発表する場もあるというように、非常に広い中でいろいろなことが有機的に展開できる空間で、その中にももちろん図書資料も加わっているという姿を見て、とてもいいなあと思った。もちろんそんなものがなかなか作れないのは分かっているけれども、そういうコンセプトみたいなものをコラボには活かしていただきたい。学校においても、図書館は図書館としてあるが、授業で使う時には、例えば美術の時間に何かのモチーフを考えなさいということで動物のことを調べに子ども達は図書館へ行く。そこでいろいろな本を出してきて、友達同士であれがいい、これがいいと話をし、また美術室へ帰らないといけない。その辺をもっとスムーズにつなぐことができれば、もっと学校図書館も活用されるだろうに、そのように考えることが普段学校の現場でもある。そんな時に、新しいコンセプトで作られた場所を見ると、やはりそういうつながりを大事にしている。ぜひ本当の「コラボ」センターにしてもらいたいと思う。

●委員

施設配置について考えるってということだったので、少し考えてみた。それぞれの館の特徴を活かすということを考えるには、大前提として、何回も繰り返さないと語られてはきたと思うが、豊中市としていったいどんな図書館を作りたいのかということ、基本に帰って考えることが大前提にあって、そのう

えで今言われている南部地域の問題などをどう解決していくか考えることが必要だろう。もう一回基本みたいなところを話す必要があるのかなと、ちょっと違う角度から考えている。例えば私が今勤めているのは服部図書館の近くで、服部図書館の事なら大体分かる。けれども、千里コラボは活性化しているよと聞いても、具体がやはりよく分からない。そこをもっときちっと知っていく所からしかこの話は前に進まないのではないかと思う。

●委員

図書館が好きな人、利用しやすい人以外の人を少し考えてみる。子ども達が図書館に行くということは、どうしてもお母さん達がいないと行けないという面がある。中には行って本も借りたいけれども、お母さんがだめと言うとか、実際いろいろな事がある。子ども達は、小さいながらも図書館に憧れをもっていたりするので、そういう子ども達が利用しやすいような場所であつたらいいなと思う。特に小さいお子さんを連れていると、行きやすい場所であつてほしい。保健センターの帰りにちょっと寄れるとか、そういうところであるといいと思う。

●委員

先ほどの南部地域、南部のコラボセンターの件を例にして意見を言わせてもらいたい。地域とのつながりが議論されていて、そこに図書館がどういうふうに関わって行くのかが、今問題にされていると思うが、「図書館」というからには、やはり本が主体になる。基本としては。ですからこれはひとつの例だが、いわゆる音楽に関する事、歴史に関する事、中小企業が沢山あるということから、ものづくりに関する事。これひとつひとつの分野を取っても、本はかなりたくさんあると思う。そこらへんの特色を蔵書の面を出していくという事が第一点。もうひとつは音楽ならば、もちろん音大にはコンサートホールなどを持たれているが、図書館の横に視聴覚室みたいなものを設置して、そこで音楽的なイベントやものづくりに関する講演会、あるいは歴史に関する催しをするなどの向性を出していく。蔵書の面と、それから施設面での充実によって、市民が集まって交流できるような場所を目指す、そういう方向性もひとつあるんじゃないか考える。おそらく他の地域でも、その地域の特性によってそういう事が考えられると思う。そういう事から言えば、それぞれひとつひとつの図書館について、その地域の特性や関わりを考えていかななくてはならないと思う。

●委員

今後南部コラボができるにあたって、図書館の位置づけをここできちっと議論するという事を前提にしてだが、今豊中は商工会議所などが中心になって豊中駅周辺のBALをこの間実施されたが、すごくたくさんの市民が集って楽しんだ。今まで豊中駅の東西は本当につながりがなかったのだが、やっとうづくりというコンセプトの中で130店舗が参加して、すごく大きなお祭りみたいな1日があった。そこに「オトナカ」ということで、もう3年ほど前から大阪音大との連携で豊中市のあちこちの施設で大フィルとか音大の学生さんとか、そういう人たちがあちこちでリサイクルする取り組みがあるが、それと、豊中駅前BALとが一緒になって、ユニークでこれからの豊中の活性化にもつながるだろうと思ったが、そこに図書館がかんでないのはどうなのか。地域に出ていくとか、地域を知ろうとか、良いことが書かれているけれど、実際にそういう催しの中に出て行かないといけないのではないか。だから図書

館協議会で、もちろん南部コラボにぜひ図書館の機能をというふうに私達が議論して、それで諮問に応えるっていうことももちろん力になると思うが、やはり組織としての図書館が、あるいは行政全体が図書館をどう活かして町を活性化させるのに役立てるかという、そういうビジョンがもっと示されて良いのではないかと、とてももどかしく思う。ぜひそういうイベントなどで、例えば大フィルがアクア文化ホールで演奏会などをした時には、その演奏会で取り上げられた作曲家に関わる資料を子ども達にぜひ読んでもらおうと、そういう図録とか絵など、様々な資料をアプローチに並べることだって可能だろうし、いろいろなことが地域でできるのではないかと思う。その工夫が見られなくて、ビジョンから工夫からなんとももどかしい。その辺を今問われているのではないか。もっと積極的にPRしていくこと、地域に出ていくなれば具体的にそれを作っていくこと。それが今しなければならぬ事ではないかなと思うのだが。ここの議論を待ってからではいけない、ちょっと違うんではないかなとやっぱり思う。

●委員

私も今言われたような気持ちで、やはりこういう立派な館ができるという時に、具体的な話が入ってこないということは、ちょっともどかしいと思う。

●委員

私自身は全部の図書館を見たわけでもないので発言しづらいところもあるが、今までの意見を聞いて、やはり南部地域というのが一番大きな懸案だと言うのはひとつ言えると思う。ではその時に、例えば庄内幸町図書館をクローズして庄内図書館に一体化した時に、どういうデメリットとメリットがあるのか整理しておくことが必要なのではないかという気がしている。今具体的にどういうメリットがあるかということ指摘はできないが、そういうことがひとつ必要だと思う。それから先ほど登録率のお話が出たが、おそらくこれは方法によっては100%という目標もたてられるとは思いますが、これまでの図書館でやはり実質的な目標をたてていこうという流れがある中で、ある自治体などでは登録者数が人口を超えているというような事も生じたりしているなどと聞くので、そういう事ではなく実数の目標値としての60%ということだと思う。実際、それはかなりハードルとしては高いところに目標を置かれているという気がしている。

●委員

その通りだと思う。施設配置についてもいろいろな議論をこれまでも積み重ねられてきたことだろうし、図を見ても明らかなように、見直すべきは南部地域かという気はするが、さっきどなたかの意見で、豊中だけで議論をしてもいけないのでは、という指摘があった。前回は尼崎に近いところの話が出たが、逆に広域も含んで重なっているという意味では、吹田・箕面・池田などとの関係がある。重なっているところについてはむしろそこを小さくして、他を大きくするという事だって、理屈上は考えられると思う。今までの経緯があると思うのでよく分からないが、施設配置を市の中だけで考えれば、議論の余地なく南部地域を取り上げて・・・ということになるのだろうが、もう少し広域利用についても踏まえたうえで、南部なら南部を問題とするように最終決定した方が良いのではないかという気がする。それから利用者数とかを見る時には、そこを一時的に通過するような利用人数とかも入っているのか。

●委員長

普通は入れていないが、来館者数というときには、貸出などをしないそういう利用人数も入るが。

●委員

そうすると、大阪大学の学生はたくさん蛍池の周辺に下宿をしたりしていて、図書館も利用はしているのだろうけれど、貸出利用についてはよく分からないが、そのような通過していく人達というのも入れると少し違う絵も描けるのかなと思いつつ聞いた。

●委員長

確か前回、貸出人数の1.5倍ぐらいが委員の言われる来館者数に合致するかということだった。そのあたりで例えば年齢別とかいうことによる違いが少し出てくれば、その地域の状況とかが分かってくる。ひとつには先ほどある委員が言われたように、おそらく施設配置の観点でここにどうこうというだけではなくて、その事を通して市内全体の施設の機能を、もう一度きちんと点検していくという作業が当然必要になってくるだろう。ある地域をどうするか、例えば南部をどうするかではなくて、その事を通してもう一度豊中市全体の図書館のそれぞれの機能を再点検していくという事ではじめて、その新しい場所というものが意味を持ってくる。そこでそれぞれの機能の再点検をしていく中では、広域での機能の分担というものが要素として考えられるのであれば、そのことにもきちんと配慮しながら、もう一度点検をしていくということが多分必要なのだろう。そして、今までの経験を次にどう活かしていくかという中で、多分利用者の方から見ると図書館がなかなか外に出行っていない、PRができていないという部分になってくるかなと思うが、そうした意味ではもう一度それを考え直していく上で、今まで築いてきたものをきちんともう一度点検して、それをどう生かすかという視点を次の施設を考える時には十分に活かしていかないと難しいだろう。そういった意味では千里コラボが一定の成果をあげた、その事をどのように次に活かしていくかということが一つ大きな課題になるのかなと思った。

●委員

「豊中市立図書館中長期計画」の中で「特定事業見直し項目」の中で図書館費を中核市と比較して「市民一人当たり2,000円以下にする」というところがあったと思うが、それもずいぶん図書館協議会でとにかくサービス・クオリティをすごく高めて、しかも一人当たりの図書館費を2,000円以下にするという、そこにとつともない矛盾があるんじゃないかというような議論も出た。手元に高槻市の図書館協議会の記録があり、「平成23年度北摂7市比較」というものがある。市民一人当たりの図書館費は豊中はこの7市、高槻・池田・箕面・豊中・吹田・摂津・茨木の中で最下位です。で、箕面がトップでは豊中の倍近い市民一人当たりの図書館費だった。蔵書冊数は豊中は全体の4位で、貸出冊数もやはり4位。ということは、豊中は決して図書館が色んな意味で過剰なわけではない。これはもう一回きちんと本当に図書館費を2,000円以下にして、それで市民の登録率は40%から60%に上がって、それでクオリティは保障されて、さらに地域に出掛けて行ってということができるとか。これはマジックみたいな事にしか見えない。どこかでその条件でいったい何ができるのか、人員配置も含めて本当にこれを考えないといけないと思う。このことを考えると頭が混乱しそうになるが、ぜひそのことについて、この図書館協議会の中でできるだけ整理して議論できるようにしたい、皆さんと一緒にやりたいな

というふうに思っている。図書館費の事については、どうしてもちょっと言いたかったので申し上げた。

●委員長

図書館の数値を考える時、一番気をつけなければいけないのは、実は「全国平均値」というものだ。非常に地域によって差が大きい。図書館に関しては、特に最低これだけはしなければいけないというような法律のしほりもないので、非常に地域的な差が激しい。このため全国平均と言うのを図書館の数値にあてはめる場合にはかなり慎重でなければいけないということを、実際仕事をしながら思っているところだ。ただ豊中市の方針として一つの考え方が出ているわけなので、結果としてきちんと豊中の図書館として責任を持った仕事をしていけるものにしていくということが、多分大前提だと思う。責任を果たすべき形でそれを担当していくという事が必要だろうと思うので、その辺りは続けての議論の課題にしていくべきだろうと思っている。

残り時間が少なくなってしまったが、事務局から「その他」についてどうぞ。

●事務局

公共図書館の図書館システムは、来年2月にリース期間が5年の満了となる。新たな図書館システムの進捗について少し説明をさせていただきたい。メーカーに関しては契約も最終段階に入っており、ICTの活用として、ICタグを全蔵書に貼付できるめどがたつたのでICゲートいわゆるBDSゲート、無断持ち出し防止装置の全館設置を予定している。公衆無線LANについても導入する方向で進めている。図書館の中でWiFi等で情報摂取ができる環境が整うということである。BDSゲートを設置することによって、より正確な来館者数が取れるという側面もある。一応来年2月から3月にかけて更新を予定しており、その動きを少し説明させていただいた。以上である。

●委員長

新しいシステムのご報告ということだったが、何かご質問等があればどうぞ。

●事務局

最初に説明すべきだったが、壁面にいろいろうけつ染の作品があるが、本日はスズキコージさんという絵本作家を講師に迎え、おはなしボランティアのフォローアップ講座を開催した。講師のスズキコージさんの作品である。夕方に終わったので、せっかくの機会ですので、皆さんにぜひ一度見ていただければと思い、この状態で開催させていただいた。

●委員長

もうひとつご相談ですが、時間もそれほどないなかで今回の諮問を受けて討議しているので、できれば少しこの答申にかかる原案の作成を、私も関わって何人かで進めていけたらなというふうに思っている。メンバーについて、多分時間の調整もしなければいけないので、後で少し私と事務局の方で日程調整等させていただいき、また再度委員の方々をお願いするということでもよろしいか。そうした形で少し人数をしぼったかたちで原案の作成にかかっていきたいと思う。これについては委員の皆さま方にはお願いもし、ご報告もさせていただくという形で、とりあえず答申の原案の作成の集まりというのをもち

ていきたい。お忙しい中何回か集まっていただくことになり恐縮ですが、よろしくお願いします。

●事務局

次回の日程については、1月28日で調整をしたい。時間は本日と同じく18時30分からでお願いします。以上で第5回豊中市図書館協議会を閉会する。